

日韓親善会議の 成果と 今後の展望

RI 会長主催の親善会議とは、どこか遠い国々の間のことと思っていた。それが日韓両国の間で開かれるとは、それほど深刻な亀裂があったのか。4月27～29日、ソウルで開かれた日韓親善会議は、そのしこりをふりほどいて共に歩むことにあった。その経緯を実行当事者が語る

古い友情を新しい友情に 育てる機会ができた

高野 ご出席の皆さん、親善会議の大変お忙しいさなかを『ロータリーの友』のため貴重なお時間をおさきいただき、ほんとうに有り難うございます。親善会議の印象が薄れないうちになまのお声をお伺いしたいということで、皆さんにお集りいただいたわけです。

1979年9月に、このソウルでアジア地域大会がございましたが、その時にも今回と同じような座談会を持ちました。この2年間に、私達が積み重ねてきたものは、どう変わってきたでしょうか、大変興味があるところです。79年以来日韓両国間では、様々な試みが進められてきま

出席者

前 RI 理事	松平 一郎	(東京日本橋)
韓日親善連絡 委員会委員長	呉 在 璟	(ソウル)
韓日親善会議 韓国側実行委員長	朴 東 奎	(漢 陽)
RI 韓国財務	金 永 徽	(漢 陽)
日韓親善会議 日本側実行委員長	細谷 実	(藤沢北)
同 日本側実行委員	末永 直行	(福岡西)
司会・前「友」常任委員	高野孫左衛門	(甲 府)

順不同

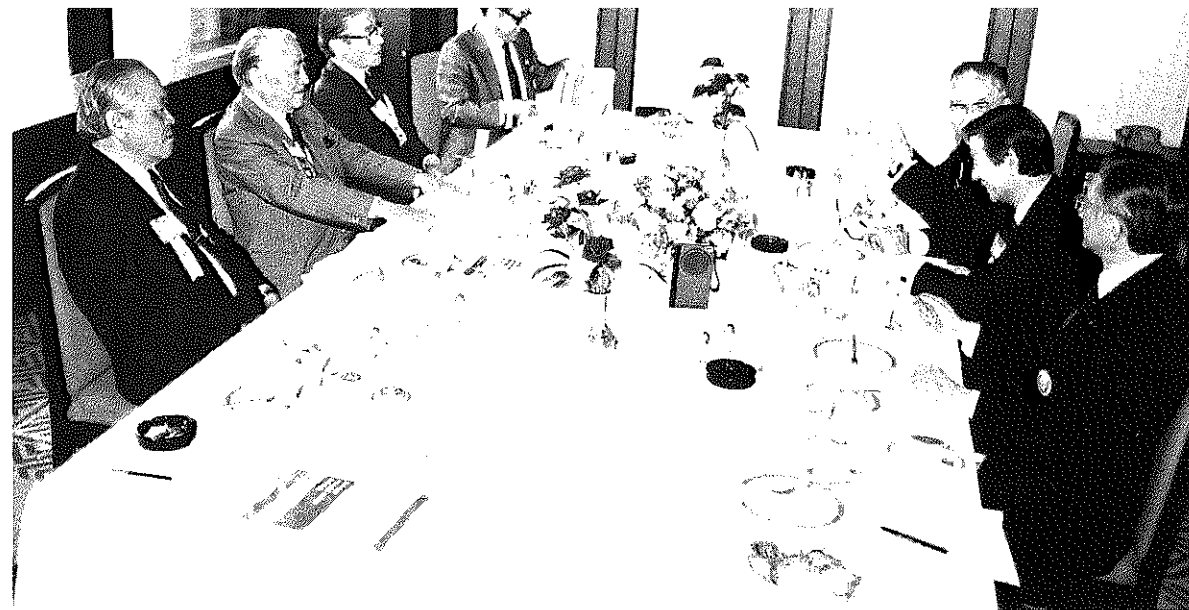
したが、突如としてこの親善会議が出現して、戸惑いをお持ちのロータリアンもないわけではありません。これと、今までの連絡委員会との関係もあり、この二つの組み合わせについて今後どうあるべきか、まずこの辺からお話を伺いたいと思います。前の座談会にもご出席願ったC. K. 呉さん、今回の親善会議では立派に責任を果たしてご活躍されていますが、呉さんからお話を伺うのが一番適切かと存じますが。

呉 個人のことでありますが、私は40年ぶりに6年間に一緒に勉強した同級生に会うことができました。そういう方が2、3人いたようです。ほんとうに懐かしかったです。古い友情を新しい友情にすることができました。韓国人と日本人全体がそうした間柄であり、そうした意味から今度の親善会議はとても有意義でした。

開会の時の、フランシスコの平和を求める祈りは、その中に本当に愛することによって愛されるという喜びを私たち全てのものにしよう、という考えから、全体のプログラムを用意したものなのです。プログラムの実行については、反省すべき点は2、3あるわけですが、28日の午餐会に出席された日本の会員から、この午餐会ひとつで今度の親善会議は成功ですよといわれ、感激しました。私もこの3日間本当にただありがたいと思っています。

高野 この親善会議が開かれることになったいきさつについて、ひとこと……。

呉 マックヤフリーさんがソウルにお出にな



座談会風景

った時、ここにおられる朴東奎元ガバナーの午餐会があったのです。席上、私たち韓国と日本の間には、いろいろなしこりがまだ残っているのだ、そのしこりをそのままにして共に歩くよりは、それをふりほどいてざっくばらんに話し合って、それから一緒に歩いていくほうが、本当の友づくりの手助けになるという話をされたのです。私はもちろん、韓国のロータリーのリーダーは皆同感でした。そしてマックヤフリーさんが松平さんと相談して、RI 理事会にこれを上程させましょうということだったのです。私達が身にしみた過去の体験それを取り除くのはとても難しいことなのです。また個人的なことで失礼ですが、私は1919年生れです。父は独立運動で家を離れていたし、そういう36年の生活、それはそうたやすく私たちの生活から去っていかんのですよ。独立してからも民主主義と共産主義の戦いの中で、それも冷戦という困難な状態にありながら、それでも私たちは仲良くしていかななくてはいけないという考えを基にしています。この親善会議に期待するものはあまりにも多いのです。

高野 呉さんのいまのお話は、今までの問題に光明を与えてくださったと思います。

日本の参加者全員を

招待したホームビジットの意味合いは

高野 細谷さん、日本側の親善会議の実行委員長としてご準備いただくご苦労の中で、何か

お感じになったことはありませんか。この2年半という間に何か変わりがあったでしょうか。その辺のところを。

細谷 約3年ということになるのですが、その間、日韓親善委員会、「会議」ではありませんで、委員会のほうは残念ながらあまり進展を見ませんでした。それはいろいろな事情によるものと思います。だからこそ今回の親善会議となったとすれば、逆な意味で役に立ったとも、いえましょう。「委員会」が停滞した遠因となったのは、アジア地域大会後の朴大統領事件、ついで光州事件などがあり、日本から何うことを積極的に考えられなかった、それが停滞の理由でしょうか。そこで、何かきっかけを探しているところに、今回のマックヤフリー会長主催の親善会議ということで、日韓両国にとって非常に時宜を得た企画でした。特にホームビジットは日本人の家族ぐるみの参加で、韓国人の家庭の心の暖かさにふれ、いずれも楽しかった、ほんとうによかったと喜んでいますが、韓国側にお詫びを申し上げたいのは、ご用意いただいたホームビジットについて日本人のゲストが1人も来なかったご家庭があったこと、大変申し訳なく思います。参加者全員が招待されていると、一生懸命PRしたのですが、行き届かなかったようです。どうも今までの大会と同じように自由意志でいいのだという気持ちでおられた人があったかも知れない、また姉妹クラブとの関係や

スケジュールの調整がつかなくて参加できなかったグループもありましたが、いずれにしても日本側での周知徹底、韓国側への密なる連絡、これらに私としても不満足な点が残し、申し訳ない気持ちです。ただ、参加者へのPRが浸透するには時間的に十分でなかったように思います。

『友』に掲載してもらうには遅過ぎましたし、文書で通知しても仲々読んでもらえない。そこで、いつもの大会と同じような気分の参加者もおられたのです。

呉 日本の参加者全員を韓国の家庭に招待したホームビジットの意味合いは、私達の心を開いて、皆さんを私達の中に引き入れることによって、本当の新しい意味の友達づくりをし直すというものでした。実は、私も8人お招きしたのに4人しか来ませんでした。これはまだいい方で、あるロータリアンはちょうど家も新築したし、張り切って準備をした。カクテルパーティーは庭で、食事はこの部屋でと、ところが1人も姿を見せなかった。受け入れの家庭はどこでもそうですが、準備を1カ月前からするその結果、だれも来なかった。随分がっかりしていましたが、私もそのロータリアンに済まない気持ちでいっぱいです。

細谷 ほんとうに申し訳ありませんでしたが、2〜3の例をのぞいては、こんな有意義なホームビジットはなかったでしょう。

高野 このことは、国際理解や親善を進める上で警鐘のひとつとしてわれわれは受けとめるべきでしょうね。

細谷 結果として十分徹底はできませんでした。私どもとして訴えたのは、いつもの大会とは異なり、参加者全員がホームビジットに招待されているので、ご家族づれで参加を、そして、会議の3日間、最後まで出席してほしい、ということでした。私の親しいロータリアンは「今度はいつもと違った雰囲気があった、とてもエスケープする気にはならなかった、素晴しかった成功だ」と言っていました。特に日本でいけないのは私も含めまして、初日だけ出て次の日から観光に行ってしまう、今回はそれをしなかったわけですから、大変なかわりようでしたね。これを定着させたいですね。それから、う

れしかったのは24人のうち23人の現ガバナーが出席されたことです。これは日本側の熱意の現れとして、韓国側に汲んでいただけて、それが成功の原因の一つとなったと思います。

松平 そして、日本から460人の多数が参加して、まず第一歩として非常によかったと思います。また開催が決定してからこれだけの短期間に準備されたことは、驚異的なことだったと思います。組織上からも、さらには財政的にも韓国の皆さんのご負担が大きかったのではないかと、感謝しているしだいです。

初めての親善会議だったから

過去のことが出てきただけ

末永 「理解」というのは誤解の別名だとある皮肉な小説家が言っていますが、少なくとも私たちは誤解を少しでも減らしていくことに努めるべきでしょう。それには、自分の靴を脱いで相手の靴を一度履いてみよう、外見は履き心地の良さそうな靴でも意外に痛いことを知る、相手の苦しみ痛さを感じる、それが相手の立場に立って考えることです。そんなことが大切だなあと、今回の準備に当って感じました。そのためには、先ほども話がありましたように、若い人達は感受性が豊かだから、若いうちに留学生として1年なり2年なり、相手国の国民と喜怒哀楽を共にすることができるようにすることが大切です。そういう面から、私達がバックアップしていくことではないでしょうか。それから国語の問題についてもいろいろあります。最近、福岡のYMCAでは、ここで私、理事長をしていますが、韓国語講座を設けたところ大変な反響で大学教授からOLまで希望者が殺到しています。ロータリーでも日本全体で韓国語を勉強するよう働きかけていったらという気がします。

呉 それはうれしいですが、韓国語の勉強よりも韓国人の心を勉強していただいたほうが、もっとうれしいのです。韓国語を知っている人必ずしも、韓国人を知っているわけではないですから。韓国統治36年、あの強制労働は軍閥がしたのだから、他人がしたのだからと考えるのではなく、末永さんがおっしゃるように相手の立場になって考える、あれは私がしたのではないが日本人がしたのだ、日本という国がしたの

だ、私はその国の代表だと考え、もう少し虐げられた者の立場に立ってくださることを希望したいですね。

末永 おっしゃるとおりです。言葉を学ぶことは、あくまで便法に過ぎないのであって、私達も韓国の方々の心をより深く知るのがその目的なのです。そういう意味から言葉の勉強の提案をしたわけです。

朴 親善会議は今回が初めてですから、過去のいろいろが一辺に出てきたのですね。次回には、韓国側はリピートしない、いつもこの問題を出していたんでは、日本側は興味をなくしてしまう、だから私達はこういう機会に、それを繰り返さないようにしようと誓えばいいのではないかと思うんです。

心のふれ合いの

ほんの口火を切ったに過ぎない

高野 朴さん、韓国側の実行委員長としてお

感じになっておられることを。

朴 実は、RI会長主催の韓日親善会議を催してほしいという私の発言が契機となって、ここまでできたわけですが、私なりに二つの考え方がありました。ひとつは、日本と韓国のしこりをロータリアンがなんとかして取り除く方法はないものか、もうひとつはアジア地域大会で親善連絡委員会ができて、それがなかった時と比べると、ああしようこうしようという話がいろいろ交換がされるようになったわけですが、しかし、それはあくまで委員会を通じての間接的な伝達方法だと思います。そこで、なんとか直接的に伝えられる方法はないかと考え、親善会議をやればもっと大勢のロータリアンが一緒になって、直接、意見交換をする機会ができるじゃないか、こういう二つの考えを基に、会長に意見を申し上げたのです。もちろん連絡委員会の役割りは今後も続けてもらって、親善

会議のほうは1年か2年に1回程度開催する。そういうことを繰り返すことで、だんだんとほんとうの親善が具体化するようになるのではないか、そう考えます。

金 そうですね。両国が信じ合えるようになるまでは、心の触れ合いを増やしていくことしかありません。例を申し上げますと、私は岸信介さん主催の韓日協力委員会の常任委員ですがそれでしょっちゅうお国との会議に行っています。1959年から始まっている委員会ですが、最初は非常に堅苦しいような会議でした。それがだんだんと個人的な触れ合いが深くなってきますと、なんでも打ち解けて話しやすくなるのですね。そういうことを広げていくことが、この親善会議の目的ではないかと思います。最初の一匙で腹ふくれるわけではないという韓国の諺のとおり、こういう活動を続けていけば、両国にある小さなしこりや誤解が全部なくなっていくのではないかと、こう私は楽観しています。

今度の会議が終り、お国に帰ってから参加された方に、従来、韓国に対して持っていた気持がどう変わったかアンケートでもなされば、答は明白にいいほうに出てくるでしょう。

松平 それは、さっそく日韓親善委員会の仕事にさせていただきます。親善会議が開催されることになったその裏には、呉さんをはじめ韓国の皆さんの非常に強いサジェスションがあって実現したのであり、私達日本側として深く感

謝しています。親善会議は一言でいえば、大成功だったと思います。それは、いろいろあったにしても、今回で両国のロータリアンはおたがいに関心と理解を深めたに違いありません。そしてこれはほんの口火に過ぎないのです。せっかくついた口火を消さないようにしましょう。私個人として印象の強かったのは、日本のお嬢さんがあれだけ上手に2カ国で韓国の文学を語り、韓国のお嬢さんが日本語をあれだけよく研究し日本語で発表する。しかも、兩人共両国語でしっかり話ができる。米山記念奨学会の、あるいは韓国の奨学文化財団の成果をまざまざと理解し感銘をうけました。それは今回の大会のハイライトのひとつといえましょう。

呉 奨学生のこと、そういう若い人達がこういう目で私達韓国を見ているのだなあと、好意に満ちた意見を喜んで受け入れます。既に成り上がった人と話すよりも若い人達が韓国語を話し韓国の文学を志す、そこに私どもは愛情を持つのです。娘のような家族のようなそういう気持です。

朴 そこで、私達は本当に韓日あるいは日韓の親善をしていこうとする意志があるかどうか、あるとすれば、基となるのは何か、それはロータリー精神ではないか、あくまで国際奉仕のいろいろなプロジェクトを柱にしてやっていくべきではないかと考えるのです。